



株主のみなさまへ

第10期 中間決算のご報告

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで



取締役社長

依田 誠

企業理念

革新と成長

GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

経営ビジョン

GS YUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けします。

経営方針

- GS YUASAは、お客様を第一に考え、お客様から最初にも選ばれた会社になります。
- GS YUASAは、品質を重視し、環境と安全に配慮した製品とサービスを提供します。
- GS YUASAは、法令を遵守し、透明性の高い公正な経営を実現します。

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、平素は格別のご高配、ご支援を賜り有り難く厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第10期第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の事業の概況ならびに決算の状況をご報告申し上げます。

第10期第2四半期連結累計期間のご報告

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、財政および金融政策の効果による円安、株高基調が続き、個人消費が回復してきたことや、震災からの復旧、復興需要などの内需に支えられ、景気は回復傾向にありました。

世界経済に目を転じますと、米国経済では個人消費や住宅投資が堅調に推移するなど、引き続き緩やかな回復基調にありました。また欧州経済はドイツなど一部に持ち直しの兆しが見られるものの、債務危機および経済情勢の悪化に伴う景気後退が続いており、加えて中国においても輸出不振の表面化などにより景気が一段と減速するなど、先行き不透明な中で推移いたしました。

このような経済状況の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、国内では電源装置の販売などが増加したことに加え、当第2四半期よりタイの持分法適用関連会社を連結子会社化したことなどもあり、1,479億11百万円と、前年同期に比べて204億29百万円増加（16.0%）いたしました。

当第2四半期連結累計期間の営業利益は、電源装置の販売が好調であったことや、海外およびその他事業での利益改善があったものの、主要原材料である鉛相場の上昇や、リチウムイオン電池事業において減価償却費などの固定費の負担が増加したこともあり、37億39百万円と、前年同期に比べて3億17百万円減少（△7.8%）いたしました。経常利益は、主に為替差益の計上により、50億79百万円と、前年同期に比べて1億26百万円増加（2.6%）いたしました。四半期純利益は、当社子会社製車載用リチウムイオン電池の不具合に関するリコール関連損失および投資有価証券の売却益を計上し、さらに税金費用および少数株主損益を計上した結果、30億45百万円と、前年同期に比べて1億2百万円減少（△3.3%）いたしました。

なお、中間配当金につきましては、連結の業績動向、配当性向等を総合的に勘案し、見送らせていただきましたことをご報告申し上げます。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、当社グループにとって引き続き厳しい経営環境が続くものと予想されます。

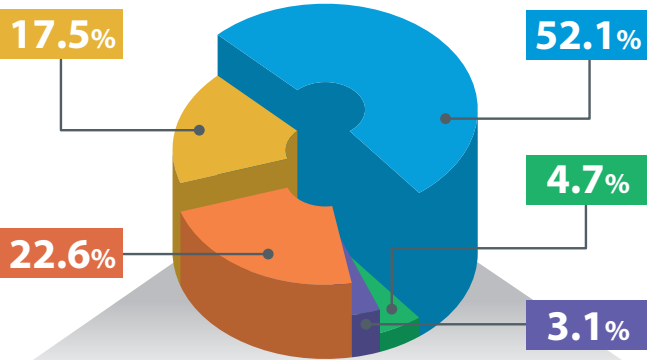
各事業分野におきましては厳しい価格競争が続いておりますし、当社グループの業績は主要原材料である鉛相場の変動やリチウムイオン電池事業における需要動向の変化などに大きく左右されます。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえ、さらなる合理化や経費削減に取り組むとともに、後述いたします「第三次中期経営計画」の必達を目指して取り組んでまいりますので、みなさま方の倍旧のご指導とご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

Segment Information 事業別の状況

事業別売上高構成比

- 国内自動車電池事業
- 国内産業電池および電源装置事業
- 海外事業
- リチウムイオン電池事業
- その他事業



国内産業電池および電源装置事業

売上高は、パワーコンディショナやフォークリフト用鉛電池の需要が好調に推移していることなどにより、334億24百万円と、前年同期に比べて31億55百万円増加(10.4%)いたしました。セグメント損益は、販売増加に伴ない生産が好調に推移したことなどにより、29億95百万円と、前年同期に比べて6億91百万円増加(30.0%)いたしました。



パワーコンディショナ「ラインバックαⅢ」

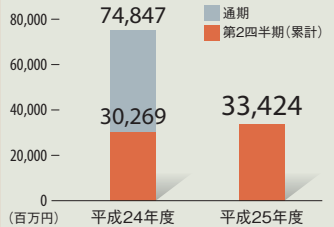


フォークリフト用電池

主要製品

据置用、車両用、電動車用、その他各種用途鉛蓄電池 / 小型鉛蓄電池 / アルカリ蓄電池 / ニッケル水素電池 / 整流器 / 汎用電源 / その他各種電源装置

売上高の推移



国内自動車電池事業

売上高は、アイドリングストップ車用およびハイブリッド車補機用を中心に新車用鉛電池が売上を伸ばしましたが、補修用鉛電池は総需要の減少に伴ない、また自動車関連部品の販売も減少し、259億37百万円と、前年同期に比べて8億8百万円減少(△3.0%)いたしました。セグメント損益は、販売の減少および主要原材料である鉛相場の上昇もあり、6億46百万円と、前年同期に比べて6億77百万円減少(△51.2%)いたしました。



自動車用電池「ECOR LONG LIFE (エコアール ロングライフ)」

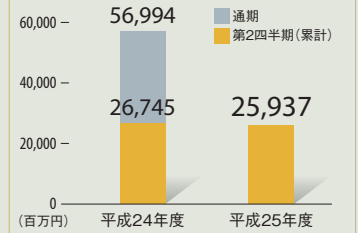


補機用電池

主要製品

自動車用、二輪車用鉛蓄電池 / 自動車関連機器

売上高の推移



海外事業

売上高は、主にタイの持分法適用会社を連結子会社化したことなどにより、769億95百万円と、前年同期に比べて159億57百万円増加(26.1%)いたしました。セグメント損益は、主要原材料である鉛相場の上昇はあったものの、販売増加に伴ない利益増加もあり、42億17百万円と、前年同期に比べて6億15百万円増加(17.1%)いたしました。



欧州車専用自動車用電池 (湯浅蓄電池(順徳)有限公司製)

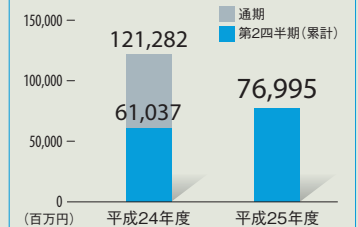


オートバイ用電池

主要製品

自動車用、二輪車用鉛蓄電池 / 据置用、電動車用鉛蓄電池 / 小型鉛蓄電池 / ニッケル水素電池

売上高の推移



リチウムイオン電池事業

売上高は、ハイブリッド自動車向け車載用リチウムイオン電池の販売が増加したことにより、68億99百万円と、前年同期に比べて21億4百万円増加(43.9%)いたしました。セグメント損益は、減価償却費など、固定費の負担が増加したことや、生産の急速な立ち上げに伴ない初期製造費用が一時的に増加したこと、品質問題対応に伴ない費用が増加したことなどから、50億70百万円の損失となり、前年同期に比べて20億83百万円悪化いたしました。



ハイブリッド自動車用リチウムイオン電池 (株)ブルーエナジー製

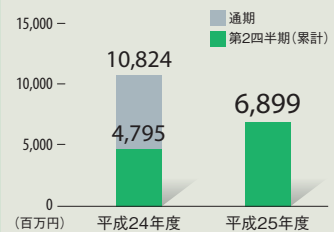


電気自動車用リチウムイオン電池 (株)リチウムエナジー ジャパン製

主要製品

車載用、産業用リチウムイオン電池

売上高の推移



その他事業

売上高は、46億55百万円と、前年同期に比べて21百万円増加(0.5%)いたしました。全社費用等調整後のセグメント損益は、本社管理部門の経費削減に加え、特殊電池や照明事業の利益改善もあり、9億50百万円と、前年同期に比べて11億36百万円改善いたしました。



セラミックメタルハライドランプ「エコセラII」

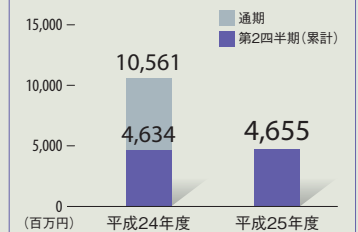


LED道路照明器具「LEGA」

主要製品

HID光源 / 各種照明器具 / 紫外線照射装置 / 電池関連機器 / 電池製造設備 / 環境関連機器 / 移動体通信用電池 / その他各種用途電池

売上高の推移



(注) その他事業に含まれるセグメント利益の調整額は△1,087百万円であり、セグメント間取引消去△632百万円、および各報告セグメントに配分していない全社費用△455百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

エネルギー・デバイス・カンパニーを目指した “新生GSユアサ”への飛躍に向け第三次中期経営計画をスタート



第三次中期経営計画(平成25年4月～平成28年3月)の概要

平成24年度を最終年度とする第二次中期経営計画(3ヵ年計画)は、経営目標を達成することができませんでした。その主な要因は、先進国における電気自動車の普及が遅れていること、加えて欧州債務危機、タイの大規模洪水、東日本大震災などの影響によるものです。国内既存事業では事業環境の変化に対応し、需要獲得に努めましたが、欧州での不振を補うところまでには至りませんでした。本年度からスタートした第三次中期経営計

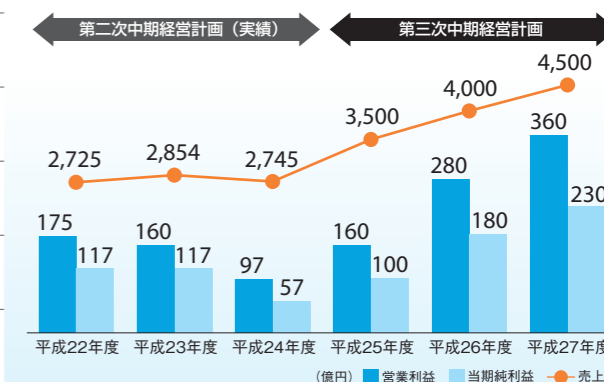
画では、エネルギー・デバイス・カンパニーを目指した“新生GSユアサ”への飛躍が方針です。その目標を実現するため、次の5つの重要戦略課題を策定いたしました。

①新規事業(リチウムイオン電池、新エネルギー分野)の事業基盤強化については、事業領域の拡大を積極的に推進し、新たな需要開拓を図ります。②グローバル市場でのポジション・アップについては、新興国を中心にしたターゲット市場でイニシアチブの確立に取り

組みます。③既存事業のさらなる高収益化については、今後の市場、競合、自社の趨勢を見定め、一層の合理化と拡販を推進します。④財務体質の改善については、有利子負債600億円以下、自己資本比率45%以上を目標とし、年間配当12円/株を目指します。⑤コーポレート・ガバナンスの強化については、さらなるモニタリング強化と迅速な意思決定ができる組織づくりに取り組んでいきます。

実績と経営目標(平成27年度目標値)

売上高	4,500億円
営業利益	8%(360億円)
当期純利益	5%(230億円)
ROE(自己資本利益率)	15%以上
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(年)	2.0以下



経営方針

世界のお客様へ快適・安心を提供する
エネルギー・デバイス・カンパニーを目指して、
事業領域の拡大と継続的成長を図り“新生GSユアサ”へ飛躍する

重要戦略課題

- ①新規事業(リチウムイオン電池、新エネルギー分野)の事業基盤強化
- ②グローバル市場でのポジション・アップ
- ③既存事業のさらなる高収益化
- ④財務体質の改善
- ⑤コーポレート・ガバナンスの強化

セグメント別事業課題

国内自動車電池事業

▶事業方針
エコカー向けバッテリーの拡販を基軸としたシェア拡大と、より一層の原価低減により収益拡大を実現する。

- ▶戦略および重要課題
- 徹底した原価低減によるコスト優位性の確保
 - ハイブリッド車補機用、アイドリングストップ車用バッテリー受注拡大によるシェアアップ

平成27年度 目標

国内自動車用バッテリーシェアの
圧倒的No.1を目指す!

国内産業電池および電源装置事業

▶事業方針
既存事業の経営基盤強化を推進し、次世代事業育成に向けた経営資源の集中投資を行なう。

- ▶戦略および重要課題
- 産業電池電源工場の生産性向上と増産体制整備
 - 産業用リチウムイオン電池事業の拡大
 - 既存事業におけるビジネス拡大と収益確保

平成27年度 目標

パワーコンディショナの生産能力拡大
産業用リチウムイオン電池の
本格的な量産開始

海外事業

▶事業方針
成熟市場での収益拡大、成長市場(既存アジア進出地域)における市場拡大への追随、新興市場での事業拡大により、鉛蓄電池市場での確固たる地位の獲得。

- ▶戦略および重要課題
- オートバイ用電池戦略：マーケットリーダーの維持
 - 自動車用電池戦略：アジア市場No.1の堅持、新興国での事業拡大
 - 産業電池戦略：既存事業を核に拡大

平成27年度 目標

自動車用電池の確固たる
世界No.2の獲得とアジア市場No.1の堅持
オートバイ用電池の世界・アジアに
おけるNo.1の堅持

リチウムイオン電池事業

▶事業方針
リチウムイオン電池事業のグローバル化を推進し、GSユアサグループにおける基幹事業に成長させる。売上を拡大させ操業度を改善、コストダウンを確実に実行し、黒字化を目指す。

- ▶戦略および重要課題
- 既存工場の操業度向上および材料費低減によるコストダウン
 - ポッシュ、三菱商事(株)との合併事業を推進し、セル・パックをグローバル市場で拡販
 - 次世代高性能リチウムイオン電池の開発
 - 重大クレーム撲滅

平成27年度 目標

(株)リチウムエナジー・ジャパン再建計画の達成
(株)ブルーエナジーの生産拡大と収益性向上
ポッシュ、三菱商事(株)との提携による
リチウムイオン電池の競争力強化

Topics 1

(株)ブルーエナジー製リチウムイオン電池が 新型上級セダンに搭載され圧倒的低燃費に貢献

当社グループの(株)ブルーエナジーが開発したリチウムイオン電池が、本年6月21日に発売が開始された本田技研工業(株)の新型上級セダン「アコード ハイブリッド」「アコード プラグイン ハイブリッド」に採用されています。アコード ハイブリッドには、出力性能を大幅に向上させ、かつ長期耐久性を確保した新製品「EH5」、アコード プラグインハイブリッドには、大容量化と高出力化をバランスよく実現し、高次元の信頼性と安全性を兼ね備えた新製品「EH19」が、それぞれ搭載されています。いずれの新製品もセダンタイプの燃費課題に応え、従来よりも大幅な低燃費性を実現しています。

リチウムイオン電池「EH19」「EH5」



Topics 2

(株)GSユアサ製パワーコンディショナを導入した 「いわきユアサ太陽光発電所」が稼働を開始

当社グループの(株)いわきユアサ本社敷地内(福島県いわき市)に1MW出力のメガソーラー(大規模太陽光発電)が完成し、「いわきユアサ太陽光発電所」として本年6月13日より稼働を開始いたしました。

東北地域の電力不足が予想される状況下において、(株)GSユアサの事業経験が活かせるメガソーラーの設置により、夏の電力使用のピークを緩和させることが第一の目的です。また、いわき市で東日本大震災後、最初にメガソーラーを稼働させたことは、電力供給に寄与するだけでなく、震災復興のシンボルとなり得る意義のある事業活動と考えています。

メガソーラー全景



Consolidated Financial Statements 連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 平成25年9月30日現在	前期末 平成25年3月31日現在
流動資産	142,149	128,703
固定資産	165,605	161,650
有形固定資産	123,839	115,037
無形固定資産	2,309	2,347
投資その他の資産	39,457	44,265
繰延資産	7	14
1 資産合計	307,762	290,368
流動負債	107,580	98,504
固定負債	52,341	50,674
2 負債合計	159,922	149,179
株主資本	123,124	122,559
資本金	33,021	33,021
資本剰余金	54,880	54,880
利益剰余金	35,542	34,974
自己株式	△ 319	△ 315
その他の包括利益累計額	7,296	2,792
少数株主持分	17,419	15,836
3 純資産合計	147,840	141,189
負債および純資産合計	307,762	290,368

四半期連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
売上高	147,911	127,481
売上原価	116,549	99,337
売上総利益	31,362	28,144
販売費および一般管理費	27,622	24,087
営業利益	3,739	4,057
経常利益	5,079	4,952
四半期純利益	3,045	3,147

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) 平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで	前年同期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
4 営業活動による キャッシュ・フロー	3,279	9,586
5 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 180	△ 15,041
6 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 71	△ 1,192
現金および現金同等物 に係る換算差額	1,024	59
現金および現金同等物 の増減額	4,051	△ 6,587
現金および現金同等物 の期首残高	11,210	16,476
合併に伴う現金および 現金同等物の増加額	—	20
現金および現金同等物 の四半期末残高	15,261	9,909

Point

① 資産合計

総資産は、Siam GS Battery Co., Ltd.およびSiam GS Sales Co., Ltd.を連結子会社化したことにより、総資産は3,077億62百万円と、前期末に比べて173億93百万円増加いたしました。

② 負債合計

負債は、Siam GS Battery Co., Ltd.およびSiam GS Sales Co., Ltd.を連結子会社化したことにより、1,599億22百万円と、前期末に比べて107億43百万円増加いたしました。

③ 純資産合計

純資産は、配当金の支払いがありました。第2四半期純利益や為替換算調整勘定の増加により1,478億40百万円と、前期末に比べて66億50百万円増加いたしました。

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加、法人税等の支払額がありましたが、税金等調整前四半期純利益、減価償却費により32億79百万円のプラス(前年同期は95億86百万円のプラス)となりました。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却、Siam GS Battery Co., Ltd.およびSiam GS Sales Co., Ltd.を連結子会社し現金および預金を取り込んだことによる収入がありましたが、有形固定資産を取得したこともあり、1億80百万円のマイナス(前年同期は150億41百万円のマイナス)となりました。

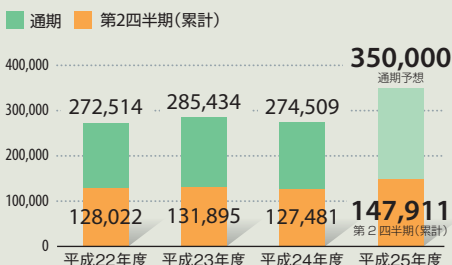
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金は増加いたしました。配当金の支払いがあったため71百万円のマイナス(前年同期は11億92百万円のマイナス)となりました。

連結業績サマリー

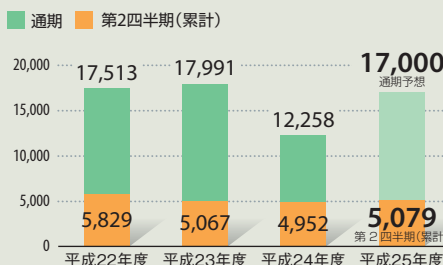
売上高

(単位:百万円)



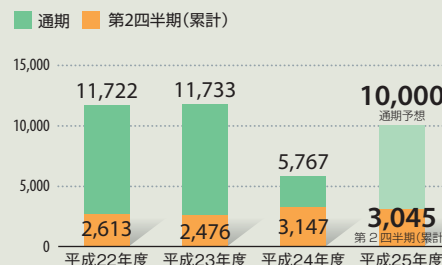
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



会社の概要 (平成25年9月30日現在)

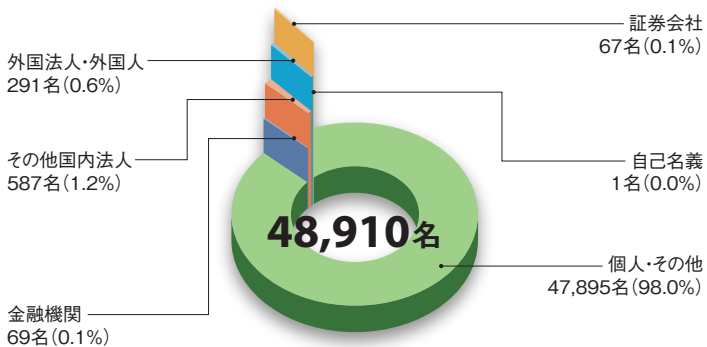
商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション GS Yuasa Corporation
事業目的	傘下のグループ企業全体の経営戦略を策定、 統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	平成16年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話 (075)312-1211
ホームページアドレス	http://www.gs-yuasa.com/jp
上場金融商品取引所	東京証券取引所

役員 (平成25年11月28日現在)

取締役社長 (代表取締役)	依田 誠	取締役	坊本 亨
専務取締役 (代表取締役)	椎名 耕一	取締役	小西 弘祐
常務取締役	吉村 秀明	取締役	村尾 修
常務取締役	西田 啓	監査役(常勤)	前野 秀行
取締役	倉垣 雅英	監査役(常勤)	落合 伸二
取締役	辰巳 伸治	監査役(常勤)	小川 清
取締役	沢田 勝	監査役	阿部 清司
取締役	中川 敏幸		

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,400,000,000株
発行済株式の総数	413,574,714株
株主数	48,910名



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 (株) (信託口)	23,530,000	5.69
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株) (信託口)	18,520,000	4.48
明治安田生命保険 (相)	14,000,000	3.39
高知信用金庫	12,866,000	3.11
トヨタ自動車 (株)	11,180,400	2.70
日本生命保険 (相)	10,719,669	2.59
(株) 三菱東京UFJ銀行	9,327,335	2.26
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	8,822,563	2.13
(株) 京都銀行	7,740,348	1.87
三井住友信託銀行 (株)	7,354,000	1.78

(注)本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨てて、比率は四捨五入しております。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会および期末配当: 毎年3月31日
中間配当: 毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
- 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行なっております。
- 公告方法 電子公告とし、当社ホームページ(<http://www.gs-yuasa.com/jp/ir/index.asp>)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主インフォメーション

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出下さい。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

